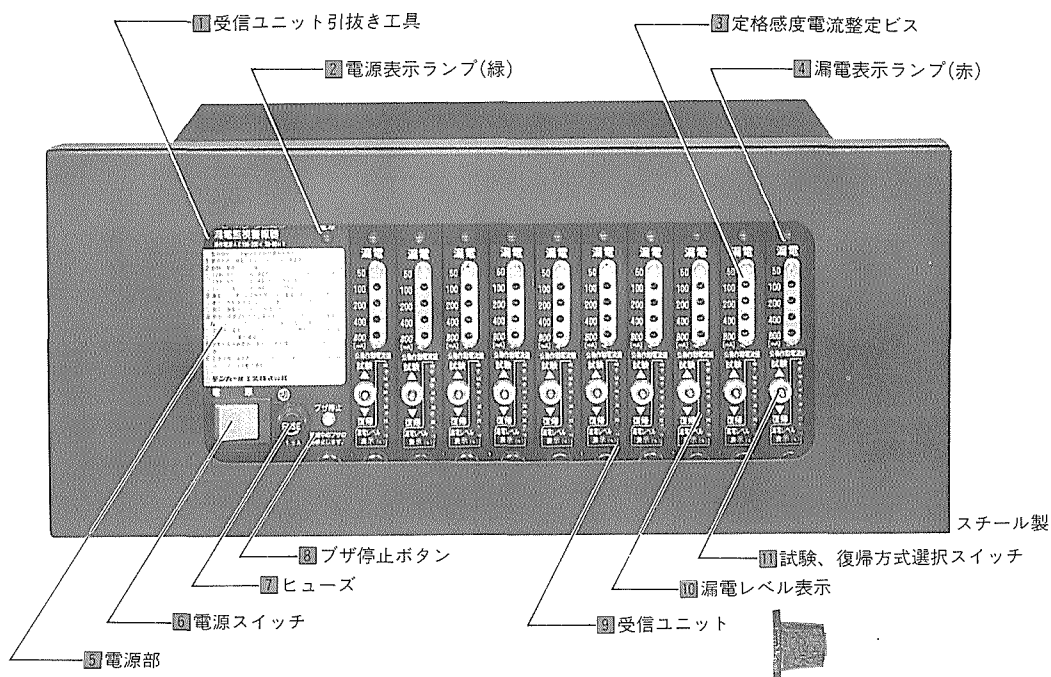




- ①受信ユニット引抜き工具●受信ユニット（プラグイン式）をこの工具で引出して下さい。
- ②電源表示ランプ(緑)●警報器の電源が入っていることを示します。点灯しない場合はヒューズ、電源スイッチ等を確認して下さい。
- ③定格感度電流整定ビス●設定する電流値のねじ穴に確実に整定ビスをねじ込んで下さい。整定ビスがゆるんだ状態では50mA感度となります。注）設定する場合、必ず電源スイッチを切にして下さい。
- ④漏電表示ランプ(赤)●漏電が発生するとランプが点灯します。
- ⑤電源部
- ⑥電源スイッチ●警報器の制御電源を☑ ☒できます。ヒューズ取替時、定格感度電流値の変更時に☑にしておいて下さい。
- ⑦ヒューズ●ガラス管ヒューズMF51(φ5)、1.5A
- ⑧プザ停止ボタン●警報中に押すとプザのみ停止します。各ユニットの警報が復帰すれば、プザ停止も自動復帰いたしますので、次に漏電が生じたときもプザは鳴ります。

- ⑨受信ユニット●プラグイン方式ですのでメンテナンスが容易です。分割形変流器には分割形専用ユニットをお使い下さい。
- ⑩漏電レベル表示●現在の漏電状態を定格感度電流値に対する割合で順次点灯します。漏電レベル表示なしも受注仕様として可能です。
- ⑪試験、復帰方式選択スイッチ
- 試験(上方向)：本体の動作確認及び変流器の導通試験ができます。
- 手動復帰(中立)：その回路に漏電が生じたとき、警報が自己保持します。
- 自動復帰(下方向)：漏電が発生したとき警報し漏電がなくなれば警報が自動復帰します。
(注)手動復帰方式の復帰スイッチと兼用しています。

零相変流器と警報器の配線、接続について

- 大電流の電力線との並行配線、同一ダクト内の配線、又は電磁誘導を受け易い配線は誤警報の原因になります。配線には十分ご注意ください。

- 配線が短い場合：2芯がベアになった電線(VVF等)で配線して下さい。配線が長い場合や電磁誘導を受ける恐れのある場合は、2芯シールド線を使用して下さい。シールドは警報器側で接地し、変流器側では接地しないで下さい。

■AS-MD 外形寸法図 (mm)

